

熊 事 研 会 報

第 9 1 号

平成20年6月27日

発行人 熊本県学校事務研究協議会
会長 中嶋 康普

編集代表 研究部長 藤本 久美子
〒 869-1501 阿蘇郡南阿蘇村両井 995
Tel. 0967(62)0126 Fax0967(62)0191

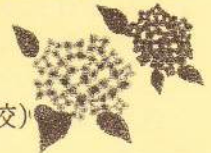
< 今回の主な内容 >

- ・新・旧会長挨拶
- ・新・旧事務局長挨拶
- ・第1回理事会だより
- ・第1回研究部だより
- ・新役員紹介
- ・地区研紹介
(阿蘇地区・宇城地区)



「 ご 挨 拶 」

熊本県学校事務研究協議会 会長 中嶋 康普 (熊本市立城北小学校)



このたび熊事研の会長をさせて頂くことになりました熊本市立城北小学校の中嶋康普と申します。県下には多くの立派な先輩方、優秀な若手の方など多数おられる中に、何の実績も実力もない私がお引き受けして良いのだろうかとの思いもありますが、推薦を受けお引き受けした以上は、理事会、事務局・研究部のみなさんと力を合わせて精一杯努めたいと存じます。よろしく願いいたします。

私は、熊事研の誕生と同じ1975年(昭和50年)の採用で、事務職員歴34年目になります。これまで事務研の活動にはほとんど縁がなく、一会員としてしか関わっておりませんでした。しかし、初任から若い頃には、事務研活動等を通して諸先輩方から多くのことを学ばせて頂き、今の自分があると思っています。この歳になってこういう役が回ってくるのも何かの縁、ある意味恩返し気持も込めて、会の目的達成、向上発展のため微力を注ぎたいと思っております。

さて、今年度から学校事務の共同実施が本格的に実施となりました。このことはこれまでの学校事務の歴史の中でも大きな転換点であり節目となるもので、今まで経験したことのないような劇的な変化をもたらすものと思われれます。今回の熊本の共同実施は、県の庶務事務集中化事業からでてきたものではありませんが、98年の中央教育審議会の答申を受け全国的に導入が広がり、先日の朝日新聞で宮崎県小林市のSSC(スクールポートセンター)のことが紹介されたように、共同実施の流れは避けて通れない時代の主流となっています。

4月から始まった共同実施に、みなさんどのように対処され、どのように感じておられるでしょうか。人それぞれで、期待し張り切っている人もあるでしょうが、戸惑い、不安、疑問を抱く人も多いことでしょう。受け止め方も、若い人たちと年配者では年代によって違いがあると思います。

共同実施が始まったことにより、学校事務そのものが様変わりしていくことになるでしょう。これまで個人主義的な職務内容と仕事のやり方を通してきた人も、他の人たちと歩調を合わせ一緒にやっっていかなければなりません。集団としての力量アップも求められます。私たちは学校事務に対する意識を変えていかなければならないと思います。まさに私たち自身の意識改革が必要になると思います。これからの若い人たちが夢と希望を持ち、展望がもてるような共同実施となるよう、熊事研としても取り組んでいかなければならないと思っております。

標準職務表の取り組みについては、長年の懸案です。私が初任の頃から事務研のテーマのひとつとして「標準的職務内容の確立」がずっと取り上げられていました。県教委通知については全国的には既に27都府県で通知等が出されている状況や、今回共同実施が導入され組織的・統一的に職務を行っていくことから、通知を出す契機としてまさにこの期を逃してはならないと思います。関係団体とも連携して、早期の通知実現に向けねばり強く取り組んでいきたいと思っております。

全事研に関しては加入して3年目になりますが、今後、共同実施の取り組みをはじめ、学校事務の在り方、事務職員の将来展望を考える上でも、全国レベルの情報収集と交流がますます必要となると思います。

共同実施が始まり、組織・集団として動くことが求められ、ますます事務研の果たす役割が重みを増しています。各地区研と熊事研が連携を強化し、一体となって活動を推進していきたいと思っております。会員の皆様のご指導ご鞭撻、ご支援ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、前会長の川上安生先生たいへんご苦労様でした。25年前の事務局長当時に熊事研の事務局体制をスタートさせ、今日の熊事研まで育てることにご尽力いただきました。あらためて深く感謝申し上げます。

「会長退任のご挨拶」

～学校事務の Passion を大切に～

熊本県学校事務研究協議会 前会長 川上 安生 (元 熊本市立東部中学校)



月日の経つのは早いもので、平成20年度がスタートして三ヶ月が過ぎようとしております。この間、会員の皆さまにおかれましては、例年のことではありますが、年度始めの沢山の仕事を抱え、お忙しい毎日をご過ごされていることと存じます。

また、特に4月からは、「学校事務の共同実施」が本格的に始まり、先生方は慣れない対応でいろいろと大変ではなかったかと拝察いたします。

さて、熊事研では、本年度第一回理事会が6月6日(金)に水前寺共済会館にて開催されましたが、その席上、本年3月末日をもって定年退職した私の後を受け、本年度新会長に中嶋 康普先生(熊本市立城北小学校)、そして坂本 一博先生(熊本市立麻生田小学校)の勇退に伴い、新事務局長には大井 聡恵先生(八代市立千丁小学校)が選出されました。また、研究部長には引き続き藤本 久美子先生(南阿蘇村立両併小学校)が選出されましたのでご報告申し上げます。

つきましては、中嶋先生、大井先生、藤本先生を始め、新役員の方々の今後一層のご活躍をお祈り申し上げます。

ところで、本年度は将来、「共同実施元年」と呼ばれるような歴史的な年となるはずですが、これを境として熊本県の「学校事務のありよう」も大きく変容していくことが予想されます。とすれば、今後、このような変化に私たち学校事務職員が、如何に的確に対応していくかが大きな課題となってきます。

全事研では、このような全国的な状況を踏まえて、数年前から学校事務のグランドデザイン、つまり、「これからの学校事務ビジョンの策定」に鋭意取り組んでこられてきましたが、それが今年の夏、全事研福島大会で最終決定される予定であると聞き及んでおります。

そうなれば、次に私たちにも「熊本県版の学校事務のグランドデザイン(ビジョン)」の策定が求められてくるだろうと思われれます。

つまり、今は変化の激しい時代状況であるからこそ、まずは学校事務のビジョン(構想、夢)を策定し、次にミッション(学校事務の使命)を明確にし、そのミッションに基づいて具体的なアクションプランを展開していくことが私たちの急務となってくるのは当然のことです。

しかしながら、「これからの新たな学校事務の策定、展開」に取り組んでいくためには、もう一つだけ必要で、欠かせないものがあります。それは何かと申しますと、「学校事務に対する私たちの熱い Passion(情熱)」ではないかと思えます。

この Passion は、姿、形もなく、私たちの目には見えないものです。しかし、これなしには「学校事務のビジョンの策定」や「ミッションの明確化」、そして「アクションの展開」は難しいはずですが。言わばこの Passion は、まさに私たちが学校事務のプロフェッショナルとして仕事していくための大切な原動力なのです。

これを別の言い方をすれば、Passion とは、「学校事務や学校教育現場への思い、すなわち、子どもたちへの愛情、思い入れ」といってもいいのかも知れません。何事も Passion なくして進展なしです。

ですから、事務研活動等が活発で、学校事務が元気いっぱいいる県を垣間見てみますと、そういった県は、例外なく、必ず学校事務への熱い Passion(情熱)を持った多くの学校事務職員の同志が、共に切磋琢磨しながら活躍されています。(宮崎、佐賀、等々)

従って、私たちもこの「学校事務に対する燃えるような Passion(情熱、愛、思い)」を大切にし、仲間と共に高めあい、さらに時空を越えて広く伝え、発展させていきたいものです。

確かに、学校現場が益々複雑になり、多忙化する中で、このような取り組みをしていくことは大変なことかも知れません。しかし、いろんな意味で今が踏ん張り所だと思います。中嶋新会長を中心に、ぜひ会員の皆さんお一人お一人に頑張ってもらい、全国の仲間と手を携えながら、熊本県の「明日

の新しい、そして元気な学校事務」を築いていただくようお願いして止みません。私もOB事務職員の一
人として、及ばずながら何かお役に立てることがあれば、喜んでご協力させていただくつもり
です。

最後になりましたが、私の2年間の会長在任中は会員、役員、理事の皆さまは言うに及ばず、県教
委、熊本市教委、各市町村教委、県校長会、県P連、全事研、九州各県の事務研などを始め関係諸機
関の方々には大変お世話になりました。激動していく時代の中で、私が、どうか「会長の役割らし
きこと」を無事に果たすことができましたのは、まさに皆さまのご協力、ご尽力のおかげです。

そのことを、皆さまに改めて深く感謝申し上げまして、私の退任のご挨拶とさせていただきたいと
思います。本当に長い間ありがとうございました。

またいつか、どこかで、皆さまと元気にお会いできますことを心から願っております。

(平成20年6月15日 記)



「よろしくお祈いします」

新事務局長 大井 聡恵 (八代市立千丁小学校)

6月6日に行われた、第1回理事会において、新事務局長に選出されました。

平成12年度から4年間研究部員として、平成17年度から3年間事務局員として、熊事研と関わ
ってきました。

熊事研の流れなどは大まかに理解しているつもりでいましたが、事務局長となるとやはり今までと
は違い、その責務が務まるかどうか不安でいっぱいです。

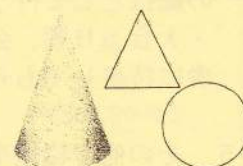
しかし、選んでいただいた以上は、自分のできる限り頑張りたいと思います。

本格実施となった共同実施、標準職務表の県教委通知実現等、熊事研が取り組むべき課題は数多く
あります。それらをひとつひとつ整理して、中嶋会長のもと、よりよい学校事務を目指していきたい
と思います。

皆様、ご意見、ご助言をよろしくお祈いします。

「視 点」

前事務局長 坂本 一博 (熊本市立麻生田小学校)



1年間大変お世話になりました。事務局長として、色々貴重な体験をさせて頂きました。また、す
ばらしい事務局員の方々に恵まれ、大変楽しく務めることができました。ありがとうございました。

この1年は、共同実施0年、10月より試行、'08年4月本格実施という変化の時期であり、各
地区からの意見をもとに理事会で決定された、共同実施に対する会員の方々の思いを、できるだけ県
教委へ届けようとしたのですが、標準職務表をはじめとして、私たちが望んでいた法整備がなかなか進
まず、申し訳なくまた残念に思っています。

さて、円錐形を真上から見ると円に見えます。だから「あれは円である」と言ってもおかしくはあ
りません。また、真正面から見ると三角形に見えます。だからあれは「三角形だ」と言ってもおかし
くはありません。しかし、視点をチョット変えてみると、全体が立体的に見えてきて、円錐形である
ことがわかります。

今、公務員制度「改革」、教育「改革」が進行している中、私たちが学校事務(職員)について論
議するとき似たような論議をしていないでしょうか?。これまでの見方に固執しないで見方を変える
ことで、ピンチと思われていた事が、チャンスであったり、逆にプラス面として考えていたことが、
マイナス面に見えてきたりすることもあるのではないのでしょうか?

平成10年9月の中教審答申「今後の地方教育行政のあり方」以降、答申内容が、「教育内容」から
「教育システム」に移行してきており、要に位置する学校事務が注目されています。この状況を私
たち学校事務職員自身がどう生かしていくのか、今まさに私たち自身の力量が問われています。「生
き残るための学校事務」ではなく「輝く未来の学校事務」というビジョンを持って、学校事務労働を
創って行けたらいいな・・・と思いながら、若い人たちにバトンを引き継ぎたいと思います。

理事会だより

平成20年6月6日（金）
於：水前寺共済会館

今年度、最初の理事会が6月6日（金）に開催され、平成20年度会長をはじめ新役員が選出されました。議事の概要についてお知らせします。

- 1 平成19年度 事業報告並びに決算報告について
 - ・昨年度の第4回理事会でも報告してありましたが、報告のとおり理事会として承認しました。
- 2 平成20年度役員選出
 - ・会長選考委員長から報告があり、新役員が理事会により選出されました。
- 3 平成20年度 事業計画並びに予算案について
 - ・今年度の基本的な事業計画並びに予算案について検討が行われ、理事会（案）として決定しました。正式には総会で皆様に承認していただきます。
- 4 第34回大会について
 - ・今年度の日程及び会場は次のとおりです。
 - ・開催期日 11月11日（火）～12日（水）
 - ・会場 鶴屋ホール・テトリア熊本
 - ・1日目の全体会については、第1部を県教委の行政説明、第2部を研究部の第2期研究推進計画の総括として行う方向に決まりました。
 - ・大会当日朝、会場への入場に必要な「参加者証」を今年度は開催要項の中に掲載し、それを参加者に持参してもらう方法に変更することになりました。
- 5 その他の協議事項
 - ・今年度より始まる功労者表彰について、表彰該当者の調査を行うことになりました。
 - ・来年度福岡で開催される全事研大会での分科会発表について、予算や研究発表協力員について確認しました。

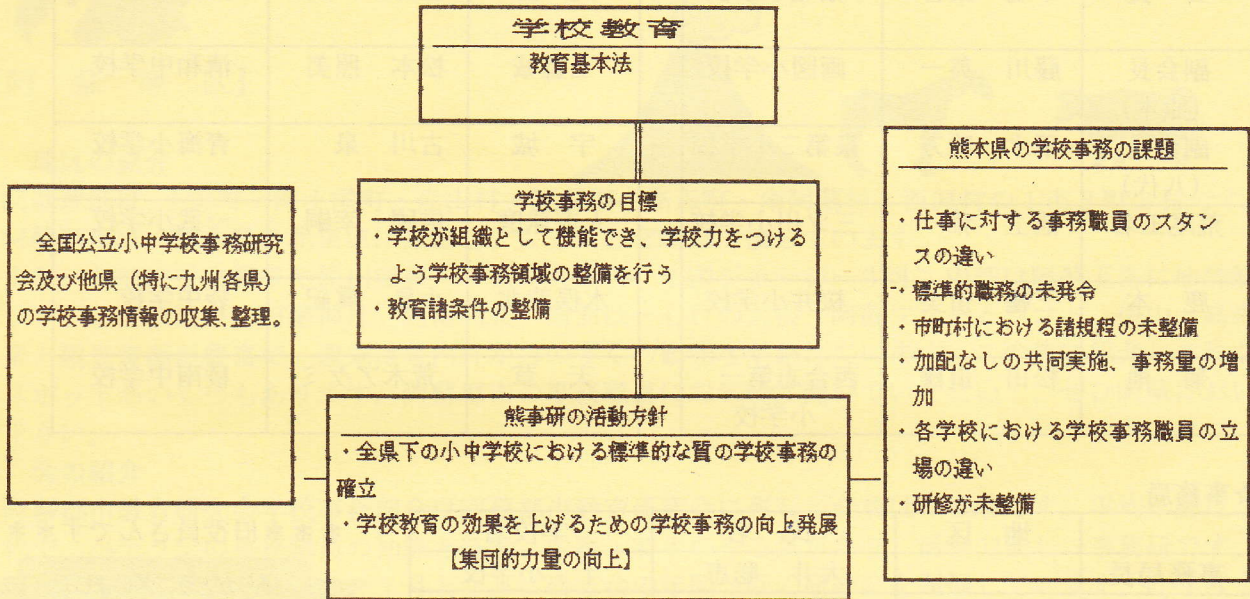
詳しい議事録は、熊事研 HP に掲載されます。



<http://www.higo.ed.jp/ws/jimukenws.index.htm>

研究部だより

熊事研 研究構想図



熊事研の学校事務改善検討の取組み

具 体 的 な 活 動				
標準職務表	諸規程の整備	共同実施への対応	学校運営への参画と学校組織マネジメント	研修制度の確立
<ul style="list-style-type: none"> 標準職務表の必要性を整理 情報収集と会員への共通理解促進 県教委への理解を促す 	<ul style="list-style-type: none"> 諸規程の整備の必要性を整理 県内の市町村の諸規程の整備状況の把握 地区研から市町村教育委員会への理解促進の働きかけ 整備実践へのリーダーシップ 	<ul style="list-style-type: none"> 法制備の必要性を整理 県内外における情報収集 情報の整理分析と会員への情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営組織の研究と意識啓発 事務局経営案の理論と啓発 学校組織マネジメント演習 学校事務のあるべき姿の例示及び検証 実践へのリーダーシップ 	<ul style="list-style-type: none"> 研修制度確立に向けた研修 他県での研修会、研究大会への参加及び紹介 都市事務研での研修の連携推進 学校事務必携の編集・配布

熊事研大会の運営及びその充実

- 事務局・研究部による大会運営マニュアル等の整備
- 分科会の充実に向けた取組み
- 全体研究会の充実

熊事研の課題や活動を、整理してみました。今年度も、会員の皆様のご理解とご協力のもと、研究推進に努めて参りますので、よろしくお願ひします。

❁❁❁❁ 平成20年度役員紹介 ❁❁❁❁

☆理事

地区	氏名	学校名	地区	氏名	学校名
会長	中嶋 康普	城北小学校	阿蘇	土井 一宏	河原小学校
副会長 (熊本)	藤川 英一	画図小学校	上益城	松本 照美	清和中学校
副会長 (八代)	平木 雅万	泉第二小学校	宇城	古川 泉	青海小学校
荒尾玉名	池上 雅一	三ツ川小学校	人吉球磨	信國 幸嗣	一武小学校
鹿本	三輪 留美	桜井小学校	水俣芦北	小島 眞紀	袋中学校
菊池	松田 道雄	西合志第一 小学校	天草	荒木アケミ	稜南中学校

☆事務局

		地区	氏名	学校名
事務局長			大井 聡恵	千丁小学校
事務局員	県北	鹿本	緒方 洋子	鹿南中学校
		鹿本	宮崎 文子	鶴城中学校
	県央	熊本	濱田 千里	花陵中学校
		熊本	上田 千浩	古町小学校
	県南	人吉球磨	片山 知美	多良木小学校
		人吉球磨	園川 祥子	山田小学校
	情報調査	人吉球磨	北里 良徳	中原小学校
		熊本	嶋原 亜希	河内中学校

旧役員さんです

ありがとうございました

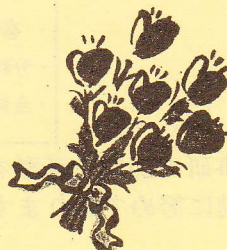
会長 川上 安生 (熊本)
 理事 久保田廣己 (荒玉)
 鶴田 正幸 (鹿本)
 岩木 篤志 (菊池)
 中原 弘典 (上益城)
 田中 豪 (宇城)
 苗床 俊二 (人球)
 大窪 広行 (水葦)
 事務局長 坂本 一博 (熊本)
 事務局員 塚本 千佳 (熊本)
 日野本慎子 (八代)
 大井 聡恵 (八代)
 研究部員 緒方 英雄 (菊池)
 氏原美和子 (宇城)
 志垣 誠 (八代)
 福永 高嗣 (人球)
 中川 正子 (水葦)
 阿部 啓介 (天草)
 北村 博之 (熊本)
 渡邊慎一郎 (阿蘇)
 ()内は旧地区です

☆研究部

		地区	氏名	学校名
研究部長			藤本久美子	両併小学校
研究部員	荒尾玉名	藤井 優子	横島小学校	
		鹿本	田中 晴美	植木北中学校
	菊池	荒木 光夫	龍門小学校	
		阿蘇	中島 大輔	中松小学校
	熊本	守永いずみ	白山小学校	
		上益城	本田 繭巳	木倉小学校
	宇城	堀内 美幸	不知火中学校	
		八代	溝口 愛和	鏡小学校
	人吉球磨	別府 美紀	須恵中学校	
		水俣芦北	柴田 夏子	津奈木中学校
	天草	早坂 博俊	龍ヶ岳中学校	

☆監事

地区	氏名	学校名
阿蘇	嶋田 秀明	碧水小学校
天草	池田留里子	五和西中学校



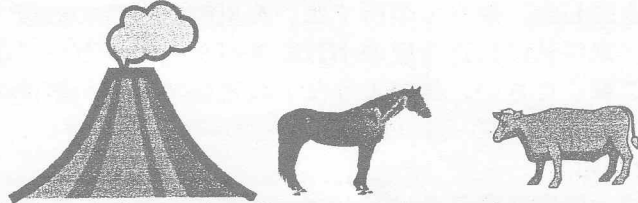


地区研紹介



……今回は阿蘇地区と宇城地区です……

【阿蘇地区】



1 地区の紹介

阿蘇地区は、小国町・南小国町・産山村・阿蘇市・高森町・南阿蘇村・西原村の1市3町3村です。阿蘇郡市は、熊本県の北東部に位置し、大分県と宮崎県に接しています。

また、北部は杖立温泉や黒川温泉、下城の大銀杏、小国ジャージー牛乳、中部は阿蘇五岳に仙酔峡のツツジ、内牧温泉、阿蘇神社、阿蘇高菜、南部は一心行の大桜、阿蘇ファームランド、俵山、高森田楽と観光資源が豊富で、週末は県内外からの多くの観光客が訪れています。この他に紹介しきれないスポットがいくつもあります。阿蘇郡市の事務職員にお気軽に聞いていただいて、ぜひ阿蘇において下さい。

2 会の紹介

阿蘇郡市教育研究会学校事務部会は阿蘇郡市教育研究会に属し、会員は46名です。平均年齢は30代で、ベテランの事務職員の知識と経験、中堅・若手のやる気があり、活発で楽しい事務研です。

現在、5月に総会と研修会、7月と2月に研修会の年間3回の研修会を開催しています。昨年度までは、2回の庶務課主催の研修会終了後に時間を頂いていたのですが、今年度からは3回のみでの研修会となり、分科会の回数が不足しています。そこで、昨年度から工夫をしています。分科会運営を責任者だけではなく、「アドバイザー」「コーディネーター」を別に置き、役割を明確にすることで、内容の充実と活性化を目指しています。研究テーマも単年度だけではなく、継続するように設定しています。更に、研究推進部としてホームページ班と「いざという時に慌てないために事務処理要領」班を別に設置し、充実を図っています。いろいろと役立つ情報がありますので、ぜひ阿蘇郡市事務研のホームページをのぞいてみてください。

今年度の研修・研究内容は以下のとおりです。

月・日	研修・研究内容	
	午前の部	午後の部
5月9日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・総会 ・分科会決定 (役割決め・テーマ設定) ・県大会発表レポートについて 	共同実施に係る情報交換 <ul style="list-style-type: none"> ・諸手当の認定について ・認定に係る根拠と解釈について ・実施後に見えた課題等
7月4日(金)	分科会	講演
2月6日(金)	分科会(まとめ) 講演	共同実施に係る情報交換 <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて見えてきたもの ・各地区の特色を活かした実践報告

分科会は第1分科会「学校経営、教育課程と学校財務について」・第2分科会第1分散会「教育条件整備、安全・安心な学習環境をめざして～安全点検をとおして～」・第2分科会第2分散会「教育条件整備、条例改正について」・第3分科会「学校給食 学校給食事務を考える」・第4分科会「実務実践事例、数多くの事例を出し合い、事例研修を行う」の4分科会です。4月から共同実施が始まり、学校事務の領域が広がり事務研の充実が求められています。回数は少ないですが、内容を工夫し、楽しくスキルアップのできる事務研にしていきたいです。

【宇城地区】



1 地区の紹介

宇城地区は、熊本県のほぼ中央に位置するため、古くから交通の要衝として栄えてきました。宇土半島では温暖な気候を利用しデコポン等の柑橘類の生産が盛んで、宇土・松橋地区は商業地として栄えてきました。観光の名所では、美里町釈迦院の石段（3333段）、三角西港、城南町塚原古墳があります。来年秋に放送予定のNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」には三角西港が登場しますので、ぜひご覧ください。このような宇城地区ですが、平成の大合併により美里町と宇城市が誕生し現在は2市3町です。10月には富合町が熊本市との合併を計画しており統合がさらに進みます。

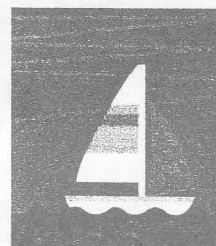
2 会の紹介

宇城学校事務職員会は、39校42名の会員がいます。管外異動等も少なくなり地元の会員が多いため、年々会員の平均年齢が高くなっています。経験豊富なベテランの会員が多いのですが、今回の共同実施については、みんな並々ならぬ意欲で仕事に当たっています。宇城事務職員会としての研修は年々減少の一途をたどり、宿泊研修や全日研修は消滅してしまいました。現在は、総会と年2回の半日研修会を実施しています。

今年度の研究テーマは「学校教育を推進、発展させる学校事務職員であることを根底にすえ、教育課程の推進に伴う学校事務のあり方を考えよう」ということで管内を4つのグループに分け、さらにグループごとの研究テーマを設け研修を重ねています。2月に実施される研修会でグループ研究の一年間の成果を報告しています。県事務研の発表は、この4つのグループのローテーションにより発表することになっています。

グループと研究テーマ

- (1) 宇土市 ○教育活動を支え推進する学校事務の創造
 ○円滑な学校運営を支える学校事務職員の力量の育成
 ○効率的な事務処理のための引継簿の充実
- (2) 宇城市 A ○統一様式の作成について
- (3) 宇城市 B ○宇城市学校財務について
- (4) 富合町・城南町・美里町
 ○教育改革に対応する学校マネジメント能力の確立に向けて
 ○学校組織マネジメント



かつて、管内の事務職員会は職場の悩みや仕事のことを相談できる場所であり、ある意味ストレスの発散場所でもありました。共同実施が導入され教育事務所単位での研修会も実施されない現在、各地区事務研の存在意義は大きくなっていると考えます。町村合併・学校の統廃合を繰り返し、かつては50人以上いた会員も40名をわずかに超える人数にまで減少しています。

熊本市にも近く、交通の便もよく非常に暮らしやすい地域です。ぜひ若い事務職員の皆さんは、宇城地区においでいただき、新しい活力を与えてほしいと思います。



・・・編集後記・・・

逃げ腰になれる歳でもなくなり今年度研究部のお仕事をさせていただくことになり、初めて会報の編集に関わりました。

何事もやってみないとわからないことばかりで、県の役員の先生方のご苦勞がわかりました。（個人的には13年に渡るマックユーザーなので一太郎と格闘いたしました。）

さてお役を戴いたからには少しは会員の皆様の役に立つような情報提供をしていきたいと思います。これからも県内各地区の事務研報告、理事会だよりはもちろん、会員の皆さまのニーズにあった内容にしてしていきたいと思いますので、何かご要望がありましたら、ぜひお聞かせください。



jimukenws@edu-c.pref.kumamoto.jp